

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000089		
法人名	株式会社ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホーム いきいきの家 くりもと		
所在地	千葉県香取市高萩765-1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた四季折々の美しい環境の中に「グループホーム いきいきの家くりもと」があります。木造平屋建てで、施設内は全面バリアフリーとなっており、入居者様が自由に過ごされています。希望のかかりつけ医への受診支援も可能であるが、訪問診療・訪問歯科が実施され、日々体調管理に努めています。職員全員がおもてなしの心と一人ひとりに寄り添う介護に努め、和気あいあいと楽しく暖かな施設作りを目指しています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいきいきの家くりもと」は、緑豊かな自然に囲まれた環境の中にある。平屋建てで全面バリアフリー、リビング等には床暖房を設置して入居者が居心地良く生活出来るよう配慮されている。大きな窓から広がる自然の景色や家庭菜園等で季節を感じ、地域の老人会サロンへの参加や子供の職場体験受入れ等で外部との交流を図り、生活の活性化と楽しみを広げて生き活きた生活への支援を行っている。職員は施設理念のもとに、入居者の個性を尊重し家庭的で質の高いサービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年2月2日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に説明をし、掲示もしており、その理念を目標とし、取り組んでいる。	「専門的な知識と技術を用い、入居者の個性を尊重した家庭的で質の高いケア」を主眼とした事業所独自の理念を掲げている。事業所内に理念を掲示すると共に、研修や会議にて都度確認を行っており、職員全員が理念を理解して共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や地域行事へも、積極的に参加している。散歩時に挨拶を交わしたりもしている。月に1度の老人会へも積極的に参加させていただいている。	地域住民とは挨拶を交わし、おすそ分けを頂く等の関係が築かれていると共に、自治会に加入して地域の清掃活動等へも積極的に参加している。また、ボランティアの受入れや地域の老人会への参加等で、利用者と地域との繋がりを深めている。地域の中学校からの職場体験も受入れ、社会貢献にも努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの参加を呼びかけ、認知症の方の理解を得る場を作っています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、日常生活状況や、評価報告など定期的に行っている。又、意見を参考にしサービスの向上に努めている。	市役所職員・民生委員・地域区長・入居者・家族・職員を構成員として、2～3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換等を行い、サービスの質の向上に活かしている。また、災害時における地域住民の協力を呼び掛けており、協力体制を築いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず市より担当の職員の参加がある。情報交換や相談などを行い、協力関係を築く様に取り組んでいる。	市職員とは、運営推進会議や市主催の会議等で情報交換を行っていると共に、日頃から施設運営全般に関わる相談や報告を行い、密に連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はしていない。身体拘束のないケアに全力で取り組んでいる。職場内の研修や、ミーティングなどで話し合い、共通の認識を持つ努力をしている。	施設方針として身体拘束廃止宣言を掲げ、事業所内に掲示している。また、マニュアルを整備すると共に、職員研修を実施して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関においては日中は施錠を行わず、入居者の自由な生活を支援している。	

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないような環境作りを行い、防止に繋げている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない入居者など、必要性の高い方については、話し合いをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	よく話し合い、スムーズに解約などが行えるよう支援を行い、十分な説明を心がけ、不安を解消出来るよう話し合っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置く。	苦情相談窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に、直接意見・要望等の確認を行っている。挙げた意見や要望に対しては、家族・職員で検討して周知を図り、迅速で適切な対応に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は普段の業務内やユニット別のミーティングなどでも聞いている。	定期的に会議を開催し、職員全員が必ず意見や提案を発言できる機会を設けている。また、日常の業務でも管理者と職員が話す機会を設け、挙げた意見や情報を運営に反映させるよう努めている。	管理者は、職員に対する評価結果を本人に伝え、職員自身が優れた部分・足りない部分を自覚する事により、やりがいとさらなる技術の向上に繋げて頂ける事を望みます。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員による、職員個々への面接を行い、意見を取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、必要に応じて参加している。内部研修においても定期的に開催している。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の集まりから、市や県の主催しているものにも積極的に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことや、困っていることを聞いていきながら、本人が安心して生活が送ることが出来る方法を探す。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のいろいろな意見を聞きながら、本人への支援に繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリなど、他のサービスが必要と判断した場合には、利用がスムーズに出来るよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を大切にし、その方にあった支援を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室の担当者は、月に1度その方のお便りを出し、状態を共有している。面会時にも、一緒にお茶を召し上がっていただいたり、コミュニケーションがとりやすい環境作りを行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の理解や、協力に基づき、自宅への外泊や、希望された場所への外出など行っている。	入居者の希望や状況に応じ、馴染みの場所等への外出を個別に対応している。また、家族との外出や外泊等も自由となっており、家族間の関係継続にも配慮している。	

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、一人一人の性格を把握し、孤立しないよう心がけている。利用者同士の関係も良くなるよう努めている。独りの時間も大切にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰った後の、サービスなどの情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援を行っている。	入居時に本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて他事業所から情報の提供を受け、詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日常の会話や観察から本人の意向の把握に努め、職員全員に周知して、常に新しい情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から伺っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況を、毎日記録し状況の変化の把握に努めている。残存能力についても、ケアカンファレンスなどで話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重しつつ、周りの意見も取り入れたケアプランを作成している。	介護計画においては、本人・家族の意向を踏まえた上で、職員会議にて話し合い作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況を確認し、必要に応じて介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状生活態を、毎日記録し、状況変化の把握に努めている。実践やケアプランにも活かしている。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・理容・外出・病院などの支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブへの参加など行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、主治医の希望を確認している。受診時に適切に状態が伝えられるように心がけ、その結果についても、その都度家族へ知らせている。	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて通院の付添い支援を行っている。定期的に、内科・歯科の往診が実施され、適切な医療支援が行われていると共に、常勤の看護師職員により適切な健康管理が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し、訪問看護師に伝えて相談し、指示を仰いでいる。必要に応じて受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ワーカーや、主治医、担当看護師とも連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合い、書面にて説明し、考えを記入していただいている。	重度化や終末期における施設の方針を明文化し、家族に説明を行った上で、同意書を交わしている。終末期においては、家族・医師・看護師と随時話し合い、本人や家族の意向に沿って施設としてできる限りの支援を行えるよう体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急講習を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、消防避難訓練を行っている。	年2回、消防署の協力のもと消防避難訓練を実施している。マニュアルや避難経路図等が整備されていると共に、火災報知機・通報装置・スプリンクラー等が設置されている。近隣住民とは、日頃の交流や運営推進会議を通じて、災害時・緊急時における協力体制を築いている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人による接遇研修が定期的に行われ、日頃より指導されている。	接遇・プライバシーマニュアルを整備していると共に、施設理念として個人の尊重を掲げ、法人による接遇研修が定期的に行われており、職員全員に徹底指導している。職員は言葉遣いに十分注意を払い入居者の尊厳を守り、プライバシーを損ねないサービスの提供に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、コミュニケーションを大切にし、思いが伝えやすい環境作りを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などもその方に合わせている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて、手伝っていただいている。畑で収穫した野菜なども利用した食事作りをしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを共同で行っている。献立や食材は配食サービスを利用しているが、週1回自由メニューの日を設け、畑で収穫した野菜や近隣からのおすそ分け食材を用いて、季節感や献立作りが楽しめるよう工夫している。また、行事食・外食会・誕生会等を実施して食の楽しみを広げている。	

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分チェック表を活用している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の状態を把握しており、それに応じた支援をしている。出来る限り、トイレでの排泄が継続できるよう、支援している。	排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、適切な声掛けや誘導で出来る限りオムツやパッドの使用を減らしながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけや、水分補給に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調、その日の状況に応じ、対応している。	入浴は毎日実施されており、入居者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。脱衣所には床暖房やトイレが設置され、入居者が心地よく使い易いように配慮されている。また、リフト浴槽も設置されており、入居者の身体状況に合わせた入浴の支援が行われている。入浴拒否に対しては、無理強いせず声掛けやタイミングの工夫、同性介助等で適切な対応を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペース、状況に応じ休んでいただく。布団干し、乾燥機を利用して寝具の清潔にも気をつけ、気持ちよく休んでいただくよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を処方箋などで確認している。職員2名で確認し、服用していたき、間違いの無いよう支援している。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレス発散にも繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、個別の要望に応じている。	入居者の希望や体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を実施して、日常的に外出支援を行っている。福祉車両を利用して定期的な外出会を実施していると共に、同系列の他施設への訪問等も実施され、戸外での楽しみや人との交流を支援している。また、ウッドデッキから直接庭へ出られるようになっており、気軽に外の空気に触れる事が出来る。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、本人・家族の意向を伺い、その状況に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の花を飾っている。	施設内は全面バリアフリーとなっており、廊下・玄関・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。リビングには床暖房が設置されていると共に、テーブル・ソファー・和室・コタツ等が設置され入居者が居心地良く、くつろげるように配慮されている。また、庭へ直接出られるウッドデッキの設置や家庭菜園等で、気軽に外気に触れ季節を感じられるようになっている。	

【千葉県】グループホーム いきいきの家 くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどで気の合った利用者同士でお話されたり、くつろげる場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただいたり、希望により畳も可能となっている。	入居者の希望により自由に馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、安心して生活が送れるように配慮している。また、希望により畳や絨毯を敷く事も可能となっている他、寝具も自由に選択できるようにしている。全居室にエアコン・換気扇・火災報知機・スプリンクラーが設置されており、安全に快適に過ごせるよう配慮していると共に、鍵が設置されており、プライバシーに配慮されている	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前面バリアフリーとなっている。トイレもわかるようにしている。		